

3.3 環境の保全のための措置

3.3.1 事後調査方法等

1) 調査内容

評価書において工事中に配慮するとしていた環境の保全のための措置の実施状況（廃棄物・建設発生土、文化財等を除く）を把握しました。

2) 調査期間

工事開始（令和 3 年 10 月 1 日）から計画建築物竣工（令和 7 年 12 月 26 日）までを対象としました。

3) 調査地点

対象事業実施区域内全域を対象としました。

4) 調査方法

施工担当者へのヒアリング及び現地確認による方法としました。

3.3.2 事後調査結果

廃棄物・建設発生土、文化財等を除く環境の保全のための措置の実施状況は、表 3.3-1(1)～(17)に示すとおりです。

表 3.3-1(1) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
大気質	最新の排出ガス対策型建設機械を極力採用します。	最新の排出ガス対策型建設機械を極力採用しました。  排出ガス対策型建設機械  排出ガス対策型建設機械（ラベル）
	工事計画の策定にあたっては、施工計画を十分に検討し、工事の平準化、集中稼働を回避するなどの建設機械の効率的稼働に努めます。	定期的な会議を開催し、工事の平準化や建設機械の効率的な稼働を図るために施工計画を十分に検討しました。  定例会議

表 3.3-1(2) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
大気質	工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて建設機械のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかしや高負荷運転をしないための指導・教育も徹底します。	新規入場者教育や各種ミーティングにおいて、建設機械のアイドリングストップや無用な空ぶかしや高負荷運転をしないための指導・教育を徹底しました。  作業前ミーティング
	建設機械の省燃費運転を推進します。	工事現場内において、建設機械等のアイドリングストップを啓発するための看板を掲示するなど、省燃費運転を推進しました。  アイドリングストップに関する看板
	正常な運転を実施できるよう、建設機械の整備・点検を徹底します。	建設機械は定期的に検査を実施するとともに、日々の整備・点検を徹底しました。  定期自主検査（フォークリフト）

表 3.3-1(3) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
大気質	工事区域境界には仮囲いを設置します。	工事区域境界には、仮囲い（鋼製仮囲い高さ3m等）を設置しました。  仮囲い
	建設発生土の搬出の際は、荷台カバーの活用等の飛散防止のための措置を行います。	建設発生土の搬出の際は、荷台の飛散防止装置を使用する等、飛散防止のための措置を行いました。 また、工事用車両が出庫する際には、タイヤに付着した粉じん等の飛散防止のため、タイヤ洗浄を行いました。  飛散防止装置の使用  タイヤ洗浄

表 3.3-1(4) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
大気質	工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めます。	定期的に会議を開催し、工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めました。  定例会議
	土曜日や祝日の工事にあたっては、周辺交通状況を勘案し、適宜、工事用車両の走行時間や走行台数の調整に努めます。	工事区域周辺の交通状況を勘案し、1つの時間帯に工事用車両が集中しないように作業間調整会議にて搬出入調整を行いました。
	工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて工事用車両のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育も徹底します。	新規入場者教育等において、工事用車両のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育を徹底しました。  新規入場者教育

表 3.3-1(5) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
大気質	工事用車両の整備・点検を徹底します。	工事用車両は定期的に検査を実施するとともに、日々の整備・点検を徹底しました。  定期自主点検（高所作業車（作業床））
	解体に先立ち、対象事業実施区域内の既存構造物については、石綿含有建材の有無の確認とその特性について調査を行います。	解体に先立ち、対象事業実施区域内の既存構造物については、石綿含有建材の有無の確認とその特性について調査を行いました。  事前調査
	石綿含有建材の使用が確認された場合には、周辺に石綿が飛散しないよう、法令等に基づく、その石綿含有建材の種類に応じた適切な除去方法を選択し、確実に実施していきます。	解体に先立った調査の結果、石綿含有建材の使用が確認されたため、周辺に石綿が飛散しないよう、法令等に基づき石綿含有建材の種類に応じた適切な除去方法を選択し、確実に実施しました。  除去作業の様子

表 3.3-1(6) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
大気質	解体時には「大気汚染防止法」や「横浜市生活環境の保全等に関する条例」に基づく届出を行い、モニタリング調査を実施するとともに、適正に処理を行います。	解体時に「大気汚染防止法」や「横浜市生活環境の保全等に関する条例」に基づく届出を行い、モニタリング調査を実施するとともに、適正にアスベストの処理を行いました。  モニタリング調査
	アスベストの使用状況の調査結果については、地域住民等に対して解体工事着手前にできる限り速やかに掲示により公表します。	アスベストの使用状況の調査結果については、地域住民等が確認できるよう解体工事着手前に速やかに仮囲いへ掲示・公表しました。  仮囲いへの掲示
	解体対象となる既存構造物におけるアスベストの使用状況及び除去作業の結果については、環境影響評価手続の事後調査報告書において報告します。	解体に先立った調査の結果、石綿含有建材の使用が確認されたため、周辺に石綿が飛散しないよう、法令等に基づき石綿含有建材の種類に応じた適切な除去方法を選択し、確実に実施しました。  事前調査の結果

表 3.3-1(7) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
騒音	可能な限り最新の低騒音型建設機械を使用します。	可能な限り最新の低騒音型建設機械を使用しました。  超低騒音型建設機械  上記建設機械のラベル
	工事計画の策定にあたっては、施工計画を十分に検討し、工事の平準化、集中稼働を回避するなどの建設機械の効率的稼働に努めます。	定期的に会議を開催し、工事の平準化や建設機械の効率的な稼働を図るために施工計画を十分に検討しました。  定例会議

表 3.3-1(8) 環境の保全のための措置の実施状況

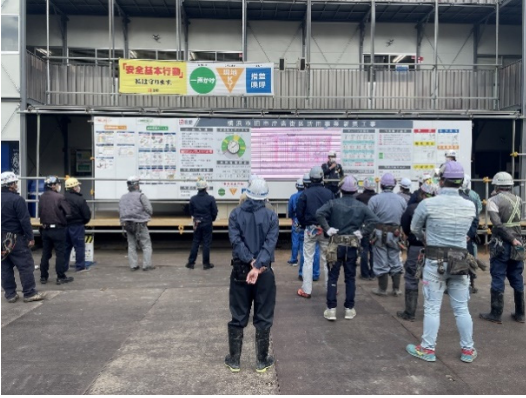
環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
騒音	工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて建設機械のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかしや高負荷運転をしないための指導・教育も徹底します。	新規入場者教育や各種ミーティングにおいて、建設機械のアイドリングストップや無用な空ぶかしや高負荷運転をしないための指導・教育を徹底しました。  作業前ミーティング
	対象事業実施区域境界には仮囲いを設置します。	工事区域境界には、仮囲い（鋼製仮囲い高さ3m等）を設置しました。 また、旧横浜市庁舎の既存建物（議会棟）の解体にあたっては、外壁の周囲に防音パネルを設置しました。  仮囲い  防音パネル

表 3.3-1(9) 環境の保全のための措置の実施状況

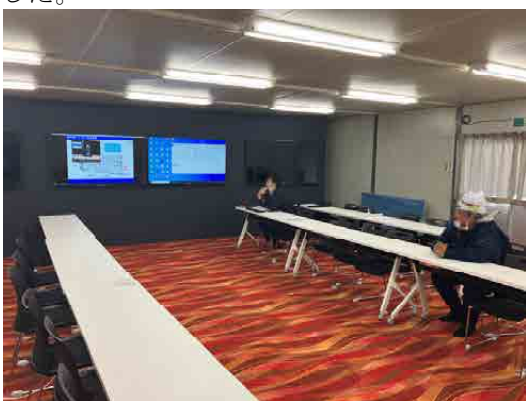
環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
騒音	正常な運転を実施できるよう、建設機械の整備・点検を徹底します。	建設機械は定期的に検査を実施するとともに、日々の整備・点検を徹底しました。  定期自主検査（バックホウ）
	工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めます。	定期的に会議を開催し、工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めました。  定例会議
	土曜日や祝日の工事にあたっては、周辺交通状況を勘案し、適宜、工事用車両の走行時間や走行台数の調整に努めます。	工事区域周辺の交通状況を勘案し、1つの時間帯に工事用車両が集中しないように作業間調整会議にて搬出入調整を行いました。
	工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて工事用車両のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育も徹底します。	新規入場者教育等において、工事用車両のアイドリングストップの徹底を周知し、無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育を徹底しました。  新規入場者教育

表 3.3-1(10) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
騒音	工事用車両の整備・点検を徹底します。	工事用車両は定期的に検査を実施するとともに、日々の整備・点検を徹底しました。  定期自主検査（高所作業車（作業床））
	可能な限り最新の低振動型建設機械を使用します。	ジャイアントブレイカーを使用した作業に伴う振動を低減させるため、部分的に、振動の少ない全旋回オールケーシング工法（CD工法）により解体作業を実施しました。 また、既存躯体解体に際し、マルチドリル機を使い、振動・騒音を抑えた工法を選定しました。  CD 工法の実施状況  マルチドリル機 工事計画の策定にあたっては、施工計画を十分に検討し、工事の平準化、集中稼働を回避するなどの建設機械の効率的稼働に努めます。 定期的に会議を開催し、工事の平準化や建設機械の効率的な稼働を図るために施工計画を十分に検討しました。

表 3.3-1(11) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
騒音	建設機械に無理な負荷をかけないようにします。	新規入場者教育等において、無用な空ぶかしや高負荷運転をせず、丁寧な運転・操作に努めるよう、指導・教育を徹底しました。
	建設機械のオペレーターに対し、低速走行等の徹底を指導します。	工事現場内に制限速度の看板を設置し、低速走行を徹底させました。  制限速度の看板
	正常な運転を実施できるよう、建設機械の整備・点検を徹底します。	建設機械は定期的に検査を実施するとともに、日々の整備・点検を徹底しました。
	工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めます。	定期的に会議を開催し、工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めました。
	土曜日や祝日の工事にあたっては、周辺交通状況を勘案し、適宜、工事用車両の走行時間や走行台数の調整に努めます。	工事区域周辺の交通状況を勘案し、1つの時間帯に工事用車両が集中しないように作業間調整会議にて搬出入調整を行いました。
	工事関係者に対し、工事用車両に過積載をしないよう、また、急発進・急加速をしない等、エコドライブの実施を指導します。	新規入場者教育等において、過積載、急発進・急加速の防止などについて周知し、エコドライブの実施を指導しました。
	工事用車両の整備・点検を徹底します。	工事用車両は定期的に検査を実施するとともに、日々の整備・点検を徹底しました。

表 3.3-1(12) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
地盤	地下掘削では、浸透性の低いシルト層に剛性と遮水性の高い山留壁を構築し、山留壁からの地下水の湧出を極力防止し、周辺の地盤沈下を回避します。	地下掘削にあたっては、SMW 工法及び格子状地盤改良工法を採用し、地下水湧出並びに周辺地盤の沈下を抑制・回避しました。  SMW 工法及び格子状地盤改良工法

表 3.3-1(13) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
地盤	工事中は、山留壁の変位の計測管理を行います。また、対象事業実施区域周辺の歩道において地盤沈下が発生していないか監視します。	SMW 山留壁及び切梁には変位を把握できるよう変位計・傾斜計等を設置し、その挙動を定期的に監視することで安全管理に努めました。 対象事業実施区域周辺の歩道において、地盤沈下が発生していないか定期的に監視しました。  傾斜計（矢印の中に設置）  周辺の定期監視
	ディープウェル工法を採用することで山留壁の内側の水位を十分に下げ、施工上の安全及び工事の作業性を確保して掘削を行います。	工事着手前に試掘を行った結果、湧水が確認されなかったため、ドライワークで掘削可能と判断し、ディープウェル工法は採用しないこととしました。ただし、ヒービング（山留壁の背面地盤が陥没し、掘削底面に周囲の地盤が回り込んで盛り上がってくる現象）が生じる可能性はあったため、SMW の根入りを深くすると共に山留壁の剛性を高め、掘削工事を安全に行える計画としました。

表 3.3-1(14) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
地盤	計画建築物は堅固な地盤に支持させます。	計画建物は堅固な支持層に PC 杭が規定長さ以上に貫入していることを確認しながら工事を完了させました。なお、支持層は監理者立会いのもと、設計図書の柱状図及び先行ボーリングで採取した土丹層のサンプルとの確認を行い判断しました。  先行ボーリング作業
電波障害	工事中におけるテレビジョン電波障害に対しては、クレーン未使用時のブームを電波到来方向に向けるなどの適切な障害防止対策を講じます。	タワークレーンの使用時には、事前に判明している電波方向への障害を軽減させるため、クレーン未使用時のブームを電波到来方向に向ける等の適切な障害防止対策を講じました。  タワークレーン

表 3.3-1(15) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
電波障害	工事中において、本事業に起因するテレビジョン電波障害が発生した場合には、障害の実態を調査、確認の上、必要に応じて受信アンテナの改善等の適切な対策を行うこととします。	工事中にテレビジョン電波障害に関する問い合わせが届いたため、障害の実態を調査、確認の上、受信環境の改善等の対策を実施し、障害が解消されたことを確認しました。
	連絡窓口を明確にし、迅速な対応を図ります。	仮囲いに連絡窓口を掲示し、迅速な対応を図れる体制を整えました。  連絡窓口の掲示
地域社会	工事用車両が特定の日、特定の時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めます。	定期的に会議を開催し、工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理に努めました。
	土曜日や祝日ならびにプロ野球開催日の工事にあたっては、周辺交通状況を勘案し、適宜、工事用車両の走行時間や台数の調整に努めます。	工事区域周辺の交通状況を勘案し、1つの時間帯に工事用車両が集中しないように作業間調整会議にて搬出入調整を行いました。
	工事用車両の運転者に対する交通安全教育を十分行い、対象事業実施区域周辺での路上駐車を防止します。	工事用車両の運転者を含む工事関係者に対し、新規入場者教育や日々の朝礼などにおいて、交通安全教育を実施・指導し、交通ルールを徹底させました。 近隣駐車場の情報を工事関係者に共有するとともに、場内に駐車場を設けることにより、対象事業実施区域周辺での路上駐車の防止に努めました。  場内駐車場

表 3.3-1(16) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
地域社会	対象事業実施区域周辺において他の事業の工事が実施される場合は、必要に応じて関係者間での情報共有、工事内容の調整等に努めます。	横浜市道路局による歩道のインターロッキング張替え工事など、対象事業実施区域周辺において他の事業の工事が実施された際は、関係者間で情報共有を行い、本事業における車両出入口からの搬出入時間の調整や取り合い調整に努めました。
	工事用車両が出入りする時間帯には原則として車両出入口に交通誘導員を配置し、一般通行者や一般通行車両の安全管理に努めます。	工事用車両が出入りする時間帯には車両出入口に交通誘導員を配置するとともに、車両出入口に一時停止を促す看板を設置し、一般通行者や一般通行車両の安全管理に努めました。  交通誘導員  一時停止を促す看板
	使用する工事用車両出入口の箇所数は、工事の進捗、作業内容、施工範囲等に応じて必要最小限となるように調整します。	使用する工事用車両出入口の箇所数は、工事の進捗、作業内容、施工範囲等に応じて必要最小限となるように調整しました。

表 3.3-1(17) 環境の保全のための措置の実施状況

環境影響 評価項目	環境の保全のための措置	実施状況
地域社会	対象事業実施区域外周では、必要に応じて案内板や仮設歩道を設け、交通誘導員を配置するなど、安全で円滑な歩行空間を確保します。	対象事業実施区域外周では、必要に応じて案内板や仮設歩道を設置するとともに、交通誘導員を配置し、迂回を誘導するなど、安全で円滑な歩行空間を確保しました。  迂回路への誘導
	「工事中の歩行者に対するバリアフリー推進ガイドライン」を参考にして、歩行者に対するバリアフリーの推進に努めます。	「工事中の歩行者に対するバリアフリー推進ガイドライン」を参考にして、敷地境界越境部の解体後にアスファルトの簡易舗装を行うことにより歩道幅員を確保するなど、歩行者に対するバリアフリーの推進に努めました。  簡易舗装の状況
	工事用車両の運転者に対する交通安全教育を十分行い、規制速度、走行ルート of 厳守を徹底します。	工事関係者に対し、新規入場者教育や日々の朝礼などにおいて、交通安全教育を実施・指導しました。